

区分	科目		1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤
必修科目	音楽学概説	西洋音楽史概説									●	●	●		
		日本音楽史概説									●	●	●		
		東洋音楽史概説									●	●	●		
		音楽美学概説									●	●	●		
		音楽理論概説									●	●	●		
		音楽民族学概説									●	●	●		
		音楽学実習Ⅲ											●	●	
		音楽学実習Ⅳ											●	●	
		卒業論文											●	●	
		楽書講読(英)									●	●			●
		初級演習									●	●	●		
	音楽学講義	西洋音楽史1講義									●	●	●		
		西洋音楽史2講義									●	●	●		
		現代音楽講義									●	●	●		
		日本音楽史1講義									●	●	●		
		日本音楽史2講義									●	●	●		
		東洋音楽史講義									●	●	●		
		音楽民族学講義									●	●	●		
		音楽美学講義									●	●	●		
		音楽理論史講義									●	●	●		
音楽音響学										●	●	●			
音楽社会学										●	●	●			
音楽分析論										●	●	●			
記譜法										●	●	●			
音楽学特論Ⅰ										●	●	●			
音楽学特論Ⅱ									●	●	●				
音楽学特論Ⅲ									●	●	●				
ポピュラー音楽研究									●	●	●				
音楽学演習	西洋音楽史1演習											●	●		
	西洋音楽史2演習											●	●		
	現代音楽演習											●	●		
	日本音楽史1演習											●	●		
	日本音楽史2演習											●	●		
	東洋音楽史演習											●	●		
	音楽民族学演習											●	●		
	音楽美学演習											●	●		
	音楽理論史演習											●	●		
	ソルフエージュ									●			●		
和声(中級)										●			●		
										●			●		
和声(上級)										●			●		
										●			●		
音楽学関連専門基礎科目	声乐史									●	●	●			
	オペラ史									●	●	●			
	鍵盤音楽史									●	●	●			
	室内楽史									●	●	●			
	管弦楽史									●	●	●			
	楽器学									●	●	●			
	西洋音楽演奏史									●	●	●			
	作曲家作品研究A(声乐)									●	●	●			
	作曲家作品研究B(鍵盤)									●	●	●			
	作曲家作品研究C(管弦楽)									●	●	●			
	作曲家作品研究D(室内楽)									●	●	●			
	邦楽概論A(雅楽)									●	●	●			
	邦楽概論B(声明・琵琶楽)									●	●	●			
	邦楽概論C(能楽)									●	●	●			
	邦楽概論D(三曲)									●	●	●			
	邦楽概論E(長唄・歌舞伎音楽)									●	●	●			
	邦楽概論F(浄瑠璃)									●	●	●			
	音楽学関係科目 1									●	●	●			
	音楽学関係科目 2									●	●	●			
ジャズ・ポピュラー音楽Ⅰ									●	●	●				
対位法									●				●		
管弦楽概論									●				●		

専門科目

必修科目

選択科目

区分	科目		1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤	
	音楽分析	音楽分析									●				●	
		楽理科研究旅行									●	●				
	楽書講読	楽書講読(伊)									●	●				●
		楽書講読(中)									●	●				●
		楽書講読(羅)									●	●				●
		楽書講読(仏)									●	●				●
		楽書講読(韓)									●	●				●
		楽書講読(日)									●	●				●
		楽書講読(独)									●	●				●
		西洋古楽演奏									●	●	●			
	実技	ガムラン演奏									●	●	●			
		東洋音楽演奏									●	●	●			
		副科実技									●	●	●			
		一般教養科目										●				
共通科目	専門基礎科目									●	●					
	外国語科目Ⅰ														●	
	外国語科目Ⅱ														●	
															●	

楽理科のカリキュラムは、4年間の学びを通じて、多岐にわたる音楽学の基礎知識と応用力を身に付け、広い視野と鋭い批判精神を持って各自の問題設定に向き合える人材を育成するよう構成されています。

音楽学の対象は、西洋や日本の古典音楽だけでなく、古今東西あらゆる時代に生み出された音楽、それらに関連した営みのすべてです。そのことに対応すべく、楽理科では①音楽美学、②音楽理論、③西洋音楽史、④日本音楽史、⑤東洋音楽史、⑥音楽民族学、の6つの領域を設定しそれに沿って専門科目を配置しています。

楽理科カリキュラムのもう一つの特徴は、音楽の実践に根差した音楽研究を重視している点にあります。副科実技はもちろんのこと、楽理科が独自に「西洋古楽」「シタール」「ガムラン」「中国琵琶」の実習授業を開講しています。これらの実技科目履修を通じて、実際の音の響き、音のシステムを身体で理解し、それを的確に研究に反映させることのできる学生を育成しています。

音楽学の研究成果をよりよく理解し、かつ自ら世界に発信できるよう、楽理科では外国語の習得を重視しています。2言語以上の外国語科目を履修し14単位を取得することが義務付けられています。

なお、2年次終了時に所定の単位数を優秀な成績で修得した学生には、3年で卒業できる(早期卒業)途が用意されており、すでに実績もあります。

○年次カリキュラム

【1-2年次】「音楽学概説」「初級演習」において音楽学を学ぶ上で必要な基本的知識と技法を習得します。(DP-1,2,3)

「ソルフェージュ」「副科実技」「和声(中級)」で音楽の基礎能力を培い、あわせて音楽を通じた文化理解の方法を学びます。(DP-1,2,3)

外国語科目、および「楽書講読」で専門書を読む言語力を基礎から身に付けます。(DP-1,2,5)

2年次からは、より専門特化した「音楽学講義」を通じて、各自の関心領域に関する理解を深めます。(DP-1,2,3)

【3-4年次】教員からの個人指導「音楽学実習」を通じて、卒業論文作成に向けた研究のプロセスを具体的に学びます。(DP-3,4)

「音楽学実習」の一環でもある「総合ゼミナール」では多彩なプログラムを通じて学生・教員間、および学生相互の知的交流を経験します。(DP-3,4)

「音楽学演習」では音楽学上の問題に自ら取り組み、調査と発表を行うことで研究の技法を身に着けます。(DP-3,4)

3年次を主対象とする「研究旅行」では日本の伝統音楽とそれを育んだ文化環境を実地に学びます。(DP-1,2)

4年次の「卒業論文」では各自が設定したテーマに即したりサーチを実施し、中間発表ののち論文を完成させ、口頭試問に臨みます。優秀な卒業論文は年度末に口頭発表され、一般に公開されます。(DP-4)

その他、「一般教養科目」「専門基礎科目」は年次を問わず履修可能であり、音楽学の研究に必要なバランスのとれた知識と教養を身に着けることができます。(DP-1,2,3 一部にDP-4)

○その他(国際交流、留学生の受け入れ、卒業後の進路)

楽理科の卒業生は、音楽のみならず芸術、文化、社会一般に対する豊富な知識、鋭敏な分析力、優れた語学力などを生かして、学術・教育界や楽壇はもとより、国内外の一般企業や官公庁にも活躍の場を広げています。

楽理科としても学生の就職活動を支援する取り組みを行っています。

近年は大学院等への進学者(本学、他大学、海外を含む)が卒業生の約半数にのぼります。

学部在学中に、協定校およびその他の海外の大学、音楽院等への留学を希望する学生は一定数います。楽理科では専門科目・専門基礎科目の大部分をセメスター科目とし、また個人の事情に応じた柔軟な履修方法を認めることで、留学に伴う履修上の不利益が生じないよう努めています。

海外の協定校から来た交換留学生の楽理科における受け入れ実績も着実に増えています。楽理科の柔軟なカリキュラムを生かして各留学生の学習に便宜を図っています。

音楽学分野の修士課程は、学生が音楽学の学士課程で習得した、あるいはそれと同等の知識や能力、経験を基に、より専門的に深化した研究を行うよう構成されています。

各学生は、学期ごとに設定されたトピックにゼミナール形式で取り組む「音楽学演習(院)」「音楽学特殊研究」を必修科目として履修します。これを通じて、音楽学の最新の問題や研究動向を把握するとともに、調査、発表、討論を繰り返すことで、自らの研究に必要な様々なスキルの上達や知識の深化を目指します。この二科目は原則として、指導教員が開設するもの、もしくは指導教員の認証を経たものを履修します。(DP-1,2)

同じく必修科目である「音楽学実習(院)」は、各学生の指導教員による個人指導です。これを通じて、各自の研究テーマの設定、研究史の把握と批判、資料収集、調査・分析技法の習得、論文構成の検討、正しい書式の習得など、一つの研究を遂行するプロセスを具体的に学びます。ここで学んだ内容は来るべき修士論文の執筆に役立てることが出来ます。(DP-2,3)

「音楽学実習(院)」の一環として随時開催される「総合ゼミナール」は、学部生、大学院生、教員が一堂に会し、ゲスト講師による特別講義、院生の研究発表、自主企画のシンポジウムなどを通じて相互の知的交流をはかる場です。修士課程学生の修論中間発表もこの時間に行われます。

そのほか、上記以外の「音楽学演習(院)」「音楽学特殊研究」のほか、「音楽学実験」、「原典特殊講義」、大学院他専攻の開設科目、および学部開設科目の一部を、指導教員の指示または認定のもとで選択履修することで、各自の研究主題に関連する知識や技能を有機的、総合的に身に着けることが求められます。(DP-1,2)

2年次以降に提出する修士論文では、その内容が学術的に高い意義をもつか、独創的な発想と識見を示しているか、なおかつ論理性と正確性を兼ね備えているかが問われます。審査会を経て優れた成績を収めた修士論文は、年度末に開催される公開制の論文発表会で口頭発表されるとともに、関連学会の例会に発表論文として推薦されることがあります。(DP-1,2,3)

○その他（国際交流、留学生の受入れ、卒業後の進路など）

本分野に所属する修士課程学生の1～2割程度を外国人留学生が占めています。一方、多くの大学院生が短期・長期の海外留学に出ており、自らの研究の水準を高めるだけでなく文化交流にも貢献しています。

例年、修士課程の修了生のうち約半数が、本学または他大学の大学院博士課程に進学しています。修了生の就職先は近年非常に多様化しており、芸術・教育関連に限らず、ジャーナリズム、官公庁、その他一般企業に及んでいます。